

「熊野神社神舞伝承活動の取組」

1 学校名

志布志市立蓬原小学校

2 学年・人数

志布志市立蓬原小学校 児童 3名 (4年生1名, 5年生1名
6年生1名)

志布志市立宇都中学校 生徒 6名 (1年生4名, 2年生2名)
計 9名

※ 蓬原熊野神社神舞保存会 十数名

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

ア 日時 9月8日(木), 22日(木)
10月6日(木), 20日(木) 18:30~22:00
11月5日(土) 17:00~18:00

イ 場所 蓬原青少年館

(2) 発表の場所・日時

ア 志布志市立蓬原小学校 学習発表会
平成28年11月6日(日)

※ 演技予定時刻 11:10~11:40

イ 蓬原熊野神社奉納祭

平成28年11月23日(水) 祝日 勤労感謝の日

※ 演技予定時刻 13:30~15:00

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能, 伝統行事について

(1) 名称

蓬原熊野神社神舞

(2) 由来

蓬原熊野神社の神舞は、延宝七年に蟻穴和尚の手により、美濃紙143枚に墨書された神舞書が現存している。古くから国家の大事や災害に際して、本神舞全42段が奉納されてきた。終戦後しばらく途絶えていたものを、昭和46(1971)年に、当時の青年団を中心に、本神舞を故西山太吉氏の指導のもと、全段復活した。昭和54年3月に、鹿児島県無形民俗文化財に指定された。

現在は、熊野神社神舞保存会を中心に、毎年11月23日の例祭日に、その一部が神社に奉納されている。

(3) 構成等

本神舞は、全42段。一番舞、幣舞、地割、山舞、宇治、矢抜、幣抜、踏剣……と続き、日向系統のものが多く、中には箕舞や田の神舞など南九州独特の舞もある。全体が洗練された格調高い舞で、鹿児島県内でもっともたくさんの種目を伝承している。

蓬原小学校の学習発表会では、小学生2名が披露した。また、1名が太鼓やスリガネの楽屋で演奏した。

例祭日には、山舞1番3番、地割舞、幣抜舞、四人鬼神舞、住吉舞を小・中学生が奉納、田の神舞と將軍舞を保存会が奉納した。

楽屋の太鼓やスリガネ、笛も保存会員と児童・生徒が演奏した。

5 保存会や地域との連携の具体

9年前から、熊野神社神舞保存会が、次世代への伝承活動として小・中学生に指導している。小・中学生による神舞が、蓬原小学校の学習発表会で披露されたり、蓬原熊野神社の例祭日に奉納されるようになった。

今年も7月に、蓬原小学校の児童や宇都中学校の生徒の希望者を募り、9月から(第2・4木曜日の夜など)、計5回保存会による指導が行われた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

平成25年度に、小・中学生による神舞は一旦途切れたが、平成26年度に、保存会のメンバーの孫を中心に、小・中学生の神舞を復活させることができた。

保存会のメンバーが、小学3年生社会科の授業で、ゲストティーチャーとして神舞を披露したり、5・6年生音楽の雅楽の授業で尺八等を披露したりして、積極的に神舞をアピールした。

神舞に参加する児童は、スポーツ少年団活動に参加しているので、少年団活動のない木曜日を神舞の練習日にした。また、保存会で所有する大人用の衣装や道具等は、小学生には大きく重い。そのため、一回り小さくて軽い衣装や道具を新調した。

できるだけ多くの舞を伝承するため、昨年発表したり奉納したりした舞と違う舞を練習した。

本年度からは、舞だけでなく、楽屋の太鼓や笛、スリガネも子どもたちが練習し、発表や奉納の場で演奏した。

7 取組の様子

(1) 保存会による練習





(2) 学習発表会での発表



(3) 例祭日の奉納



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(1) 参加児童

昨年の学習発表会で、5、6年生が神舞をおどるのを見て、今年は自分もやってみたいと思いました。初めは、うまく踊れるか心配でしたが保存会のおじさんたちが、ていねいに教えてくださったので難しい手の動きもできるようになりました。是非来年もやってみたいです。そしてぼくの舞をみて、やりたいと思う人がふえるとうれしいです。(4年男子)

初めての体験でとてもむずかしいと思いましたが、神様にほうのうする大切な役目なので、一生けん命練習しました。
中学生の先輩や保存会の方がわかりやすく教えてくださったので、せいっぱい舞うことができました。
来年は、太こや笛にもちょう戦したいです。(6年男子)

(2) 保護者

学習発表会での神舞を家族も地域の人たちもとても楽しみにしている。今年は、自分も娘といっしょに親子で参加し、楽屋で笛を吹かせてもらった。義父たちが復活させた伝統ある神舞を、私たちの世代や子どもたちの世代で受け継いでいくのは、とても意義あることだと思うので、これからも娘たちといっしょに、続けていきたい。(笛で参加した保護者)

(3) 保存会

今年は、9名の子どもたちが参加してくれた。保存会のメンバーより子どもたちの人数の方が多いので、教える方としては大変だったが、嬉しかった。子どもたちは、覚え方が本当に早い。少ない練習回数で、良く覚えてくれたと思う。今年は楽屋もやってもらったが、舞に合わせながら太鼓やスリガネなどの楽器をたたくのは大人でも難しいのに、子どもたちはすぐにできるようになった。今年も、子どもといっしょに親子で参加するお父さんもいて、後継者不足に悩む保存会としては非常にありがたかった。郷土の伝統ある神舞を、後世まで伝えていくのはとても大事なことなので、今後も小学校・中学校と連携して、子どもたちに伝えていきたい。(保存会会長)